芸術学部
美術学科

# 現代日本画の創作や、文化財の修復に取り組んでいます。

## ◎時代背景の理解が大切な日本画。

この研究室では、日本画の歴史の研究ではなく、あくまで制作者側の立場で日本画を知る、ということを大切にしています。千数百年も前に中国から伝わったものを元に生まれた日本画。時代時代のさまざまなことが関わり、そのときどきの作品が生まれてきたという意味では、日本の文化の一部であるとも言えるでしょう。現代日本画を描く上でまず必要なのは、自らの立ち位置を知ること。そういった意味では、古くから今日まで日本画の流れや時代背景を捉らえるのは重要です。

また、現存する重要文化財を修復するにあたっても、痛んだ部分を直せばいいという問題ではなく、その地域の人の想いをのせた文化の一部としてとらえたいもの。きちんとした残し方をするためにも、幅広い視点で絵画を眺め、その作品が描かれた時代背景を理解しておきたいものです。

第41回日展　夏の夜に舞う

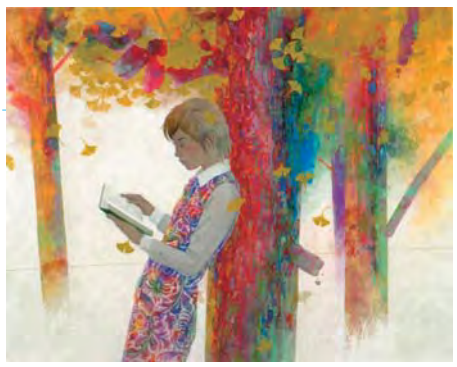
## ◎「自由制作」「文化財の保存修復」学部の段階から取り組む２つの学び。

文化財の修復については、体勢と設備が十分に整っていなければできないもの。通常、美術学科の日本画コースとしては、大学院になったあたりから保存修復の領域に入っていくのが一般的とされています。

私が以前、京都で文化財の修復を仕事として行っていたこともあり、本学では、学部の段階から「自由な制作」と「文化財の保存修復」という両方の枠組みを導入。どこよりもいち早く、文化財に関わることができる貴重な環境です。

## ◎４年間のカリキュラム、前半は徹底訓練、後半は自由制作へ。

４年間のカリキュラムは大きく２つにわかれます。１つが１年生～２年生の前期までにわたり行う基礎訓練。日本画の場合、貝殻をすりつぶした「胡粉（ごふん）」と呼ばれる絵具や、牛の皮を溶かした「ニカワ」など独特の材料を用いるため、確かな知識と技術力が必要です。前半の１年半では、全員が同じ課題に取り組みながら、これまで日本画の歴史のなかで伝えられてきた画材や道具を使いこなす方法や、さまざまな技法について徹底的に学びます。これらを踏まえ、２年生の後半からはいよいよ自由に描く課程、そして文化財の修復課程へ。与えられたものをやっていく力と、自らの力で切り開き、生み出す大変さを学ぶことで、本当の意味での技術力を磨いていきます。



第40回日展　秋の陽の下

## ◎大切なのは、描くことが好きであること。地域や文化を知ること。

日本画に向き不向きというのはない、というのが私の意見です。大切なのは描くことが好きであること。さらに、文化財の修復については、地域の人々や暮らし、歴史・文化について知るということも大切です。

**高校生の皆さんへ一言。**

リアリティを出すためには、取材プラス実体験を通じたもの創りが大切です。日本画は筆を持つ時間だけではなく、体験する時間があってこそ、描けるもの。いろんな経験をして、あなたのオリジナリティを作りあげてください。

芸術学部
美術学科
教　授　中村賢次（なかむらけんじ）